

東アジア中心に路線拡充

■広島空港会社24年度計画

広島国際空港会社は2024年度事業計画の中で、国際線については韓国線をはじめとする東アジア路線、国内線は羽田線・成田線を中心に路線を拡充する方針を示した。既存路線の復便・増便にも取り組む。路線拡充のための基盤となるグランドハンドリング・保安検査体制の構築を徹底的にサポート。地域関係者が一丸となって需要創造に取り組み、さらなる航空需要の拡大につなげる。

24年度の投資計画は計62億円。内訳は運営権設定施設5億円（航空灯火への給電装置更新など）、非運営権設定施設57億円（旅客ターミナルビル増築・改修、レンタカーステーション新設など）。旅客数・貨物量の目標（カッコ内は22年度実績）は、旅客数が国内線277万人（203万6571人）・国際線40万人（1万1059人）、貨物量8000トン（7089トン）。なおコロナ禍の影響が本格化する前の19年度は、旅客数が国内線269万3770人・国際線30万6211

人、貨物量が1万7599トンだった。

24年度の具体的施策として、旅客ターミナルビル増築・改修計画を進めるとともに、商業エリアのリニューアル計画を策定する。新規就航などの国際線の動きに合わせた免税売店・既存店舗の売り上げ拡大にスピード感を持って取り組む。空港の脱炭素化に向けた施策を昨年度に続いて実施する。

地域連携・地域共生も重視する。地元自治体・各組織など地域関係者が一丸となってエリアプロモーションによる需要創造を行い、さらなる航空需要の拡大につなげる。空港全体のCS・ES活動を推進し、満足度の向上を図る。空港周辺エリアでの新しい施設開設などを踏まえて、施設間の連携を深めて臨空エリアのにぎわいを創出する。

「安全・安心」の観点からは、72時間連続稼働の非常用発電機を整備。国際線の復便などが進むことを踏まえて、関係機関との連携をさらに強め

ながら、安全・安心の取り組みを推進する。航空機事故対応などの実践的な訓練を継続して実施。訓練の精度を高めることで有事対応力の強化を図る。

広島国際空港会社は2020年11月8日の設立。21年2月1日にビル施設等事業および空港駐車場の運営を、7月1日に滑走路の運用などを開始する形で空港の民間運営を本格開始した。20年7月の事業提案時のマスタープランは、広島空港の目指す将来像として「中四国の持続的成長を牽引し続ける圧倒的No.1ゲートウェイ」を掲げた。50年度の目標値は旅客数586万人、貨物量2万6200トン、路線数・便数は国内線8路線・2.4万便/国際線22路線・1.6万便。アジア主要路線のデーリー化、本邦ローコストキャリア・リージョナルキャリアの拠点化、臨空エリアと一体で中四国の魅力を発信する観光拠点化などの「戦略的事業方針」を盛り込んだ。